富士見市下水道ストックマネジメント計画（第２期・管路施設）概要版

1. ストックマネジメント計画の概要

ストックマネジメント計画とは、下水道施設の老朽化や劣化状況を考慮し、優先順位を踏まえた点検・調査、修繕、改築を計画的に実施することで、機能の維持・向上と事業費の縮減・平準化を図り、持続可能な下水道事業の運営を実現するための計画です。

富士見市では、平成 30 年度にはストックマネジメント全体計画、令和元年度にはストックマネジメント実施計画(令和２年度～令和６年度)、令和6年度にはストックマネジメント実施計画(第２期)(令和７年度～令和 11 年度)を策定しました。

その後、ストックマネジメント全体計画を基に、令和６年度に東みずほ台２丁目地内外において、管路施設の調査(延長約 35km)を実施し、その調査結果から、令和７年度にストックマネジメント実施計画(第２期)を改定し、新たに管路施設を追加しました。今後は、令和８年度より老朽化した管路施設の更新事業を実施する予定です。

表 1-1 対象施設

番号	路線名	設計延長(m)
1	柳瀬第９ノ１汚水幹線	1,448.7
2	新河岸第 13 ノ１汚水幹線	78.0
3	新河岸第 14 ノ４汚水幹線	653.5
4	新河岸第 14 ノ５汚水幹線	351.0
5	江川第４処理分区⑤	8,885.9
6	江川第４処理分区⑥	6,647.6
7	江川第４処理分区⑦	7,530.3
8	江川第４処理分区⑨	9,280.2
合計		34,875.2

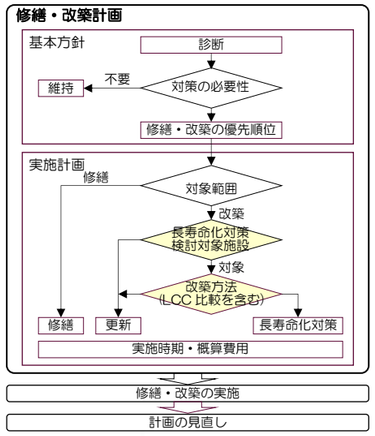


図 1-1 修繕･改築計画の策定

案内図

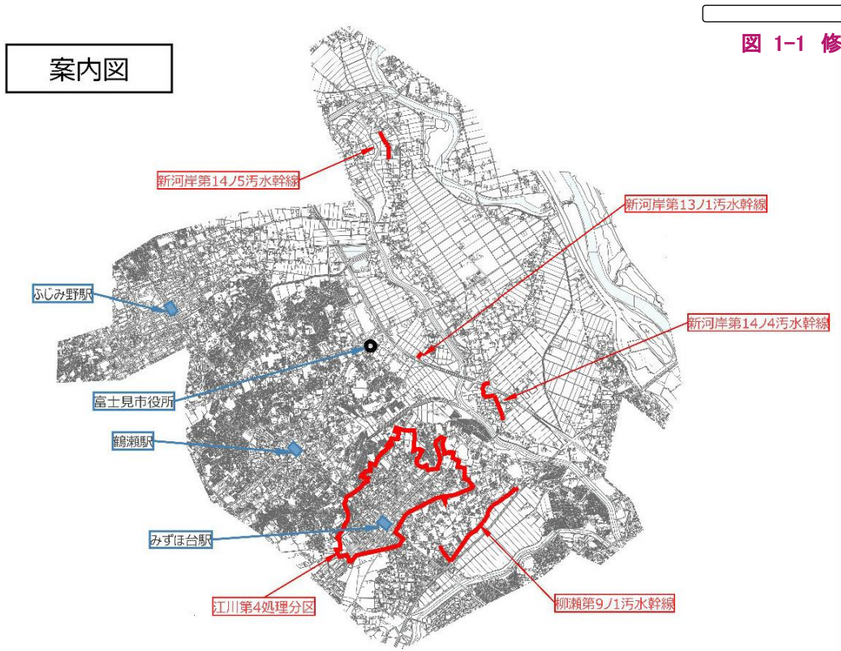


図 1-3 ストックマネジメント実施計画(第 2 期)案内図



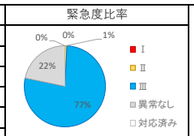
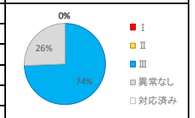
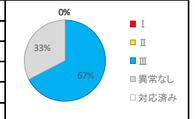
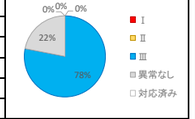


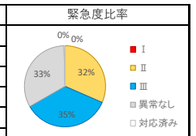
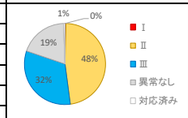
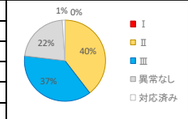
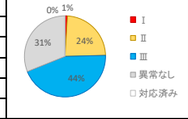
図 1-2 管更生 施工状況(上下共)

2. 点検・調査の実施

点検・調査は、管路施設の損傷や劣化状況を把握し、適切な維持管理や改築計画に活用するために実施するものです。令和６年度に実施した点検・調査の結果は表 2-1 の通りです。この調査により、一部の管きょに老朽化が進んでいることが確認されました。

表 2-1 管きょ調査結果

路線名	緊急度	延 長(m)	緊急度比率
柳瀬第９ノ１汚水幹線	計	1,449	
	Ⅰ	0	
	Ⅱ	12	
	Ⅲ	1,122	
	異常なし	315	
	対応済み	0	
新河岸第１３ノ１汚水幹線	計	78	
	Ⅰ	0	
	Ⅱ	0	
	Ⅲ	58	
	異常なし	20	
	対応済み	0	
新河岸第１４ノ４汚水幹線	計	653	
	Ⅰ	0	
	Ⅱ	0	
	Ⅲ	440	
	異常なし	213	
	対応済み	0	
新河岸第１４ノ５汚水幹線	計	351	
	Ⅰ	0	
	Ⅱ	0	
	Ⅲ	274	
	異常なし	77	
	対応済み	0	

路線名	緊急度	延 長(m)	緊急度比率
江川第４処理分区⑤	計	8,885	
	Ⅰ	0	
	Ⅱ	2,802	
	Ⅲ	3,124	
	異常なし	2,923	
	対応済み	36	
江川第４処理分区⑥	計	6,648	
	Ⅰ	25	
	Ⅱ	3,160	
	Ⅲ	2,146	
	異常なし	1,280	
	対応済み	37	
江川第４処理分区⑦	計	7,531	
	Ⅰ	0	
	Ⅱ	2,980	
	Ⅲ	2,810	
	異常なし	1,661	
	対応済み	80	
江川第４処理分区⑨	計	9,281	
	Ⅰ	92	
	Ⅱ	2,192	
	Ⅲ	4,112	
	異常なし	2,885	
	対応済み	0	
総 計		34,876	

3. 対策の必要性の検討

管路施設の調査結果から損傷・劣化状況を評価し、対策の必要性に応じて緊急度Ⅰ～Ⅲに分類することで、修繕・改築の優先順位を明確化し、効率的かつ計画的な維持管理につなげるものです。

(1) 管きょに対する対策の必要性

各汚水幹線は緊急度Ⅰ・Ⅱに対して対策を行います。また、江川第４処理分区内は緊急度Ⅰと緊急度Ⅱのうち、汚水幹線及び主要幹線道路（県道および市内幹線道路）に敷設されている施設に対して対策を行います。以上のことから、緊急度Ⅰは約 120m、緊急度Ⅱは約 3,590m、合計約 3,710mに対して対策を行います。

表 3-1 管きょの緊急度区分

緊急度の区分		措 置 方 法
緊急度Ⅰ	重度	速やかに対策の必要な場合。
緊急度Ⅱ	中度	維持等の対応により必要な対策を延長できる
緊急度Ⅲ	軽度	

(2) マンホールに対する対策の必要性

緊急度Ⅰは８箇所が確認されましたが、いずれのマンホールも不具合は軽微であるため、不良箇所の修繕により対応します。

表 3-2 マンホールの緊急度区分

緊急度	健全度ランク	措 置 方 法
Ⅰ	健全度Ⅴ	緊急な対応が必要
	健全度Ⅳ	早急な対応が必要
Ⅱ	健全度Ⅲ	必ずしも直ぐにではないが、対応が必要
Ⅲ	健全度Ⅱ	簡易な対応により必要な措置を５年以上に延長できる
維持	健全度Ⅰ(劣化なし)	特に措置は不要

(3) マンホール蓋に対する対策の必要性

緊急度Ⅰは 71 箇所が確認されました。マンホール本体の修繕に合わせて対策を実施する計画です。

表 3-3 マンホール蓋の緊急度区分

緊急度	健全度	判定ランク	措　置　方　法
Ⅰ	健全度Ⅴ	A	緊急な対応が必要
	健全度Ⅳ	B	早急な対応が必要
Ⅱ	健全度Ⅲ	C	必ずしも直ぐにではないが、対応が必要
Ⅲ		D	簡易な対応により必要な措置を５年以上に延長できる
維持	健全度Ⅰ	E	特に措置は不要
		―	

4. 修繕・改築の優先順位の検討

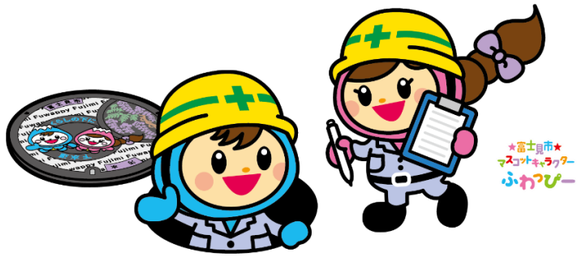
下水道管路施設の修繕・改築の優先順位の検討は、点検・調査結果や緊急度、劣化状況などを踏まえ、対策の必要性が高い施設から効率的かつ計画的に事業を実施するために行うものです。

(1) 管きょに対する修繕・改築の優先順位

表 4-1 管路施設の修繕･改築の優先順位

ブロック名	緊急度	優先順位
柳瀬第９ノ１汚水幹線	Ⅱ	1
江川第４処理分区⑤	Ⅱ	5
江川第４処理分区⑥	Ⅰ	3
江川第４処理分区⑥	Ⅱ	
江川第４処理分区⑦	Ⅱ	4
江川第４処理分区⑨	Ⅰ	2
江川第４処理分区⑨	Ⅱ	

修繕・改築は当該優先順位に基づき実施します。



(2) マンホールに対する修繕・改築の優先順位

表 4-2 マンホールの修繕･改築の優先順位

ブロック名	緊急度	優先順位
江川第４処理分区⑤	Ⅰ	3
江川第４処理分区⑥	Ⅰ	2
江川第４処理分区⑨	Ⅰ	1

マンホール本体の不良箇所は、調査の結果から直接的に本体構造物に影響を与えるものがなかったため修繕により対応します。

(3) マンホール蓋に対する修繕・改築の優先順位

マンホール蓋は、優先順位の高い地域から順次、古いタイプのものを新しいタイプの蓋へ更新します。

表 4-3 マンホール蓋の改築優先順位

優先順位	1	2	3	4	5	6	7	8
	高い →							低い
優先項目① 主要幹線道路下に埋設	幹線道路		幹線道路 (歩道)		生活道路			生活道路(狭)
優先項目②　交通量	中		中		中	少		少
優先項目③　周辺環境	住宅密集地	市街地	住宅密集地	市街地	住宅密集地	住宅密集地	市街地	住宅密集地
江川第４処理分区⑤	○		○			○		○
江川第４処理分区⑦						○		○
江川第４処理分区⑨	○	○		○	○	○	○	○

※住宅密集地：住宅が集中して集まっているエリア、市街地：家屋、商業施設、商店街が密集するエリア

5. 修繕・改築計画の策定

各施設の優先順位をもとに、年度ごとに修繕・改築事業を実施してまいります。

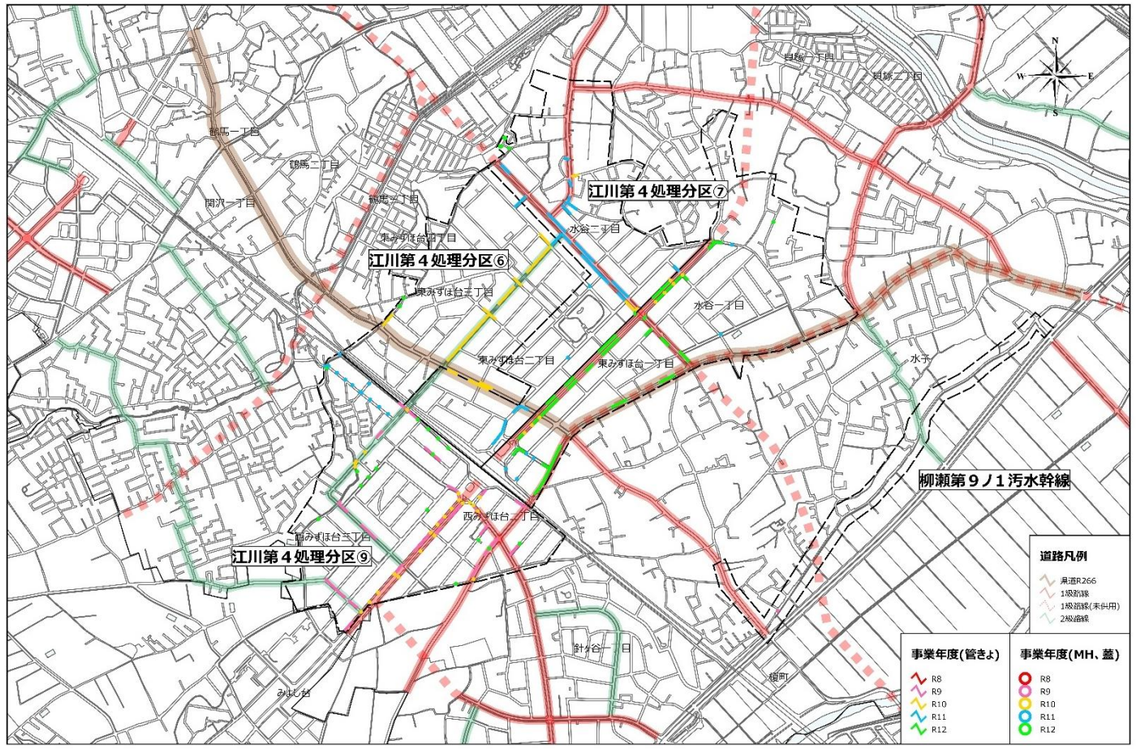


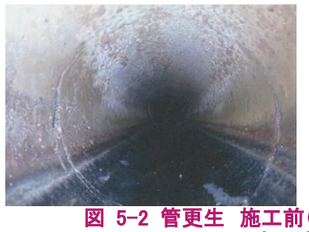
図 5-1 修繕･改築事業計画図

表 5-1 年度別事業量

事業年度		令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	合計
詳細設計	設計延長（m）	996	743	832	1,137		3,708
管更生工事	延長（m）		909	669	832	1,124	3,534
布設替え工事	延長（m）		87	74		13	174
マンホール蓋替え工事	箇所			22	30	19	71
修繕	箇所		3			8	11

今後、５年間の予定は表 5-1 の通りです。

優先順位の高い管路施設から修繕・改築を実施し、下水道管路施設の機能維持及び向上を図ります。



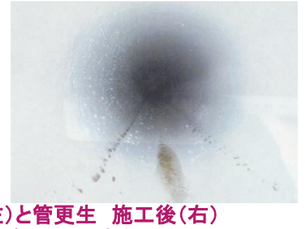


図 5-2 管更生　施工前(左)と管更生　施工後(右)
東みずほ台３丁目地内

